

# あたらしくはいった本 (令和元年11月 貸出開始資料から)

- 小説 首(北野武/著) 清く貧しく美しく(石田衣良/著) オカシナ記念病院(久坂部洋/著) まずはこれ食べて(原田ひ香/著) 黒鳥の湖(宇佐美まこと/著) 抵抗都市(佐々木謙/著) 瓦礫の死角(西村賢太/著) できない相談(森絵都/著) 梅と水仙(植松三十里/著) リボンの男(山崎ナオコーラ/著) 雲(エリック・マコーマック/著)
- 随筆・詩などの文学 老人初心者の覚悟(阿川佐和子/著) 気がつけば、終着駅(佐藤愛子/著) だから、何。(中野翠/著) 毎朝ちがう風景があった(椎名誠/著) 大人のカタチを語ろう。(伊集院静/著) オスカー・ワイルドとコーヒータム(マーリン・ホランド/著)
- その他の本 扉を開けて(共同通信ひきこもり取材班/著) 乾物便利帖(星名桂治/著) 犬のための家庭の医学(野澤延行/著) おもてなしが疲れる(本多理恵子/著) 「疲れない」が毎日続く! 休み方マネジメント(菅原洋平/著) いつだって読むのは目の前の一冊なのだ(池澤夏樹/著) ものはいよいよ(ヨシタケシンスケ/著)



『清く貧しく美しく』  
石田衣良/著  
新潮社



『首』  
北野武/著  
KADOKAWA



『老人初心者の覚悟』  
阿川佐和子/著  
中央公論新社

## みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646  
FAX (921) 4896  
<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>

## としょかんカレンダー

令和2年	日	月	火	水	木	金	土
3	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

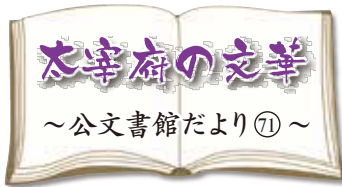
○のついた日は休館日

金・土曜日(祝日を除く)は午後7時まで開館しています。

## 乙丑の獄と太宰府天満宮

慶応元年(1865)年6月、福岡藩主黒田齊博(長溥)はその頃藩政の主流であった尊攘派を一掃する肅清を断行しました。乙丑の獄と呼ばれるこの事件は、最終的に同年10月、家老加藤司書の切腹、勤王党の藩士月形洗蔵の斬首をはじめ、多くの人間が切腹・斬首・流罪・牢居などの処罰を受けることで収束します。この肅清は市井にも波及し、尊攘派の志士に協力的であった歌人野村東望尼の志摩郡姫島への流罪、太宰府の宿屋「松屋」を営む栗原孫兵衛の入牢などが知られています。

太宰府天満宮においても、この事件の影響は及びました。9月17日、太宰府天満宮の社官馬場倉心(小野加賀)と延寿王院の家来岡崎主水の2名が捕えられ、舂木屋(福岡藩の獄舎があった場所)において取り調べを受けました。9月25日、馬場は馬廻組の大塩八郎左衛門へ、岡崎は城代組の原田孫一郎に身柄を預けられるという処分が下り、さらに岡崎は、12月には岸谷清兵衛に預け替えられています。



～公文書館だより①～

信全(平成30年4月1日号参照も、この事件の影響で水田天満宮(現筑後市水田)に隠居したという説があります(「七卿西竄始末」慶応元年9月17日条)。しかし、延寿王院の公的記録である「御用日記」の慶応元年3月17日条によれば、別当信蔵は福岡藩に対して、「延寿王院が別当職を兼帯している水田天満宮の家来達が、当社の人手が少なく社務が滞っているので人を寄越してほしいと常々要望しており、前別当信全が一、二ヶ月つづ太宰府と水田を行き来することを認めてほしい」との要望を出しています。信全は4月5日に水田に移住しますが、その後もたびたび太宰府に來ていることがうかがえ、馬場や岡崎のような処罰に関する記述は見当たりません。そもそも信全は文久元(1864)年に後継の大鳥居信蔵に別当職を譲っているもので、本来その時点で隠居所である水田へ移住すべき状況だったといえます。信全の水田移住は乙丑の獄とは関連付けて考えない方がよいでしょう。

ところで、延寿王院前別当の大鳥居

公文書館 朱雀 信城